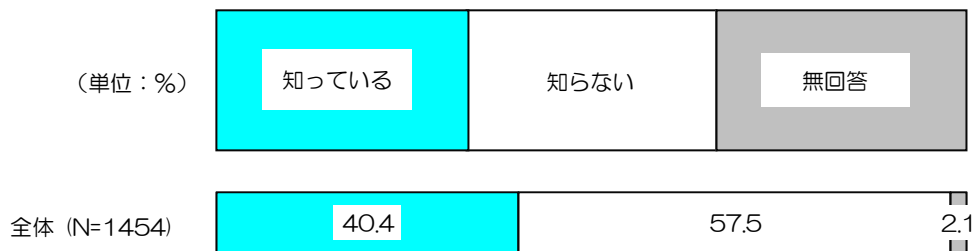


## 5 救急安心センターについて

### (1) 「救急安心センターおおさか」の認知

問25. あなたは、「救急安心センターおおさか」を知っていますか。(○は1つだけ)

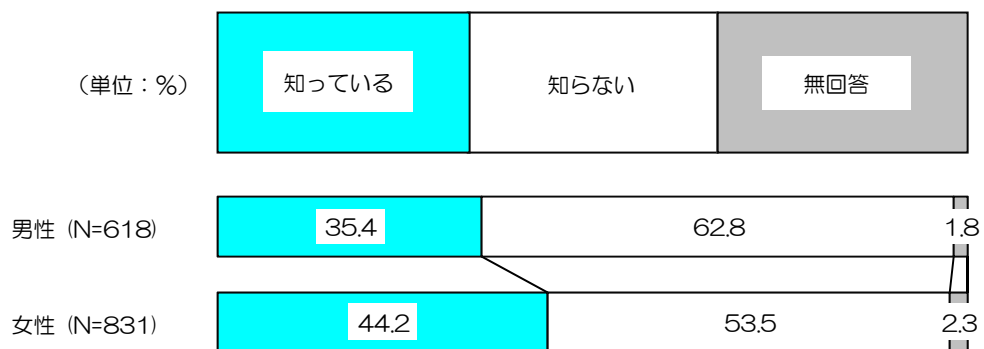
〔図表 5-1 「救急安心センターおおさか」の認知〕



#### 【全体の考察】

「救急安心センターおおさか」の認知をたずねた。「知っている」は40.4%で、「知らない」の57.5%より17.1ポイント低くなっている。(図表5-1)

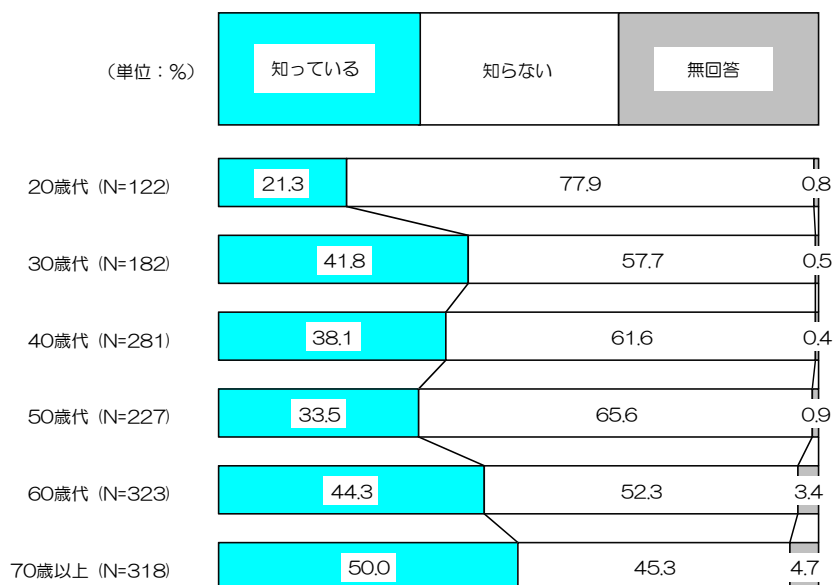
〔図表 5-1-1 「救急安心センターおおさか」の認知 (性別)〕



#### 【性別の考察】

性別にみると、「知っている」のは『男性』で35.4%、『女性』で44.2%で、『女性』の方が8.8ポイント認知率が高くなっている。(図表 5-1-1)

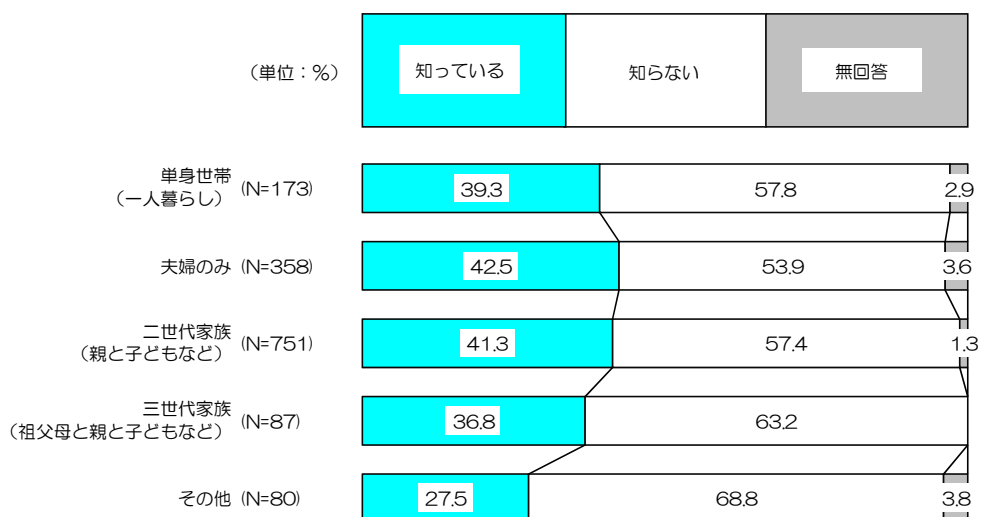
〔図表 5-1-2 「救急安心センターおおさか」の認知（年代別）〕



【年代別の考察】

年代別にみると、最も認知率が高くなっているのは『70歳以上』で50.0%。『30～60歳代』では3～4割の認知率があるが、『20歳代』では21.3%と最も低くなっている。(図表 5-1-2)

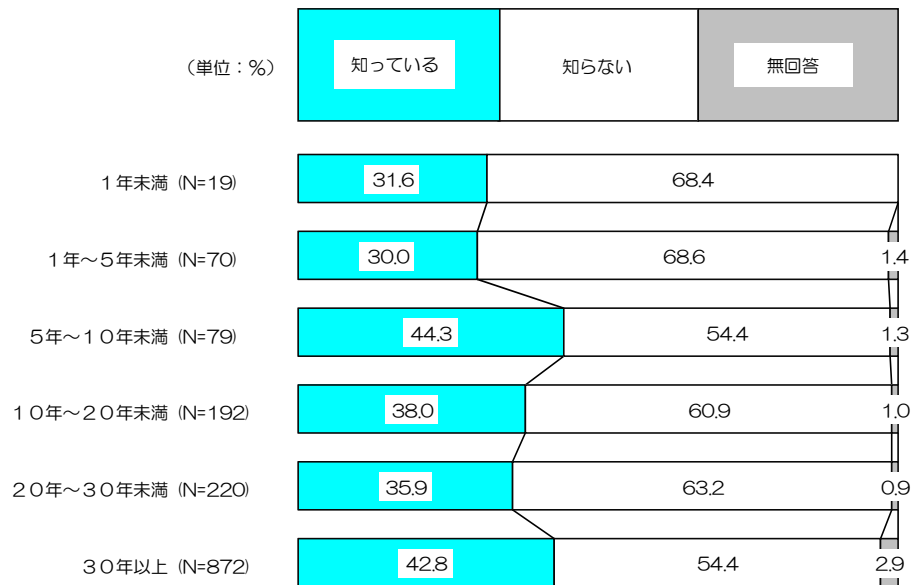
〔図表 5-1-3 「救急安心センターおおさか」の認知（家族構成別）〕



【家族構成別の考察】

家族構成別にみると、『夫婦のみ』『二世世代家族（親と子どもなど）』で認知率が4割強となっている。(図表 5-1-3)

〔図表 5-1-4 「救急安心センターおおさか」の認知（居住年数別）〕



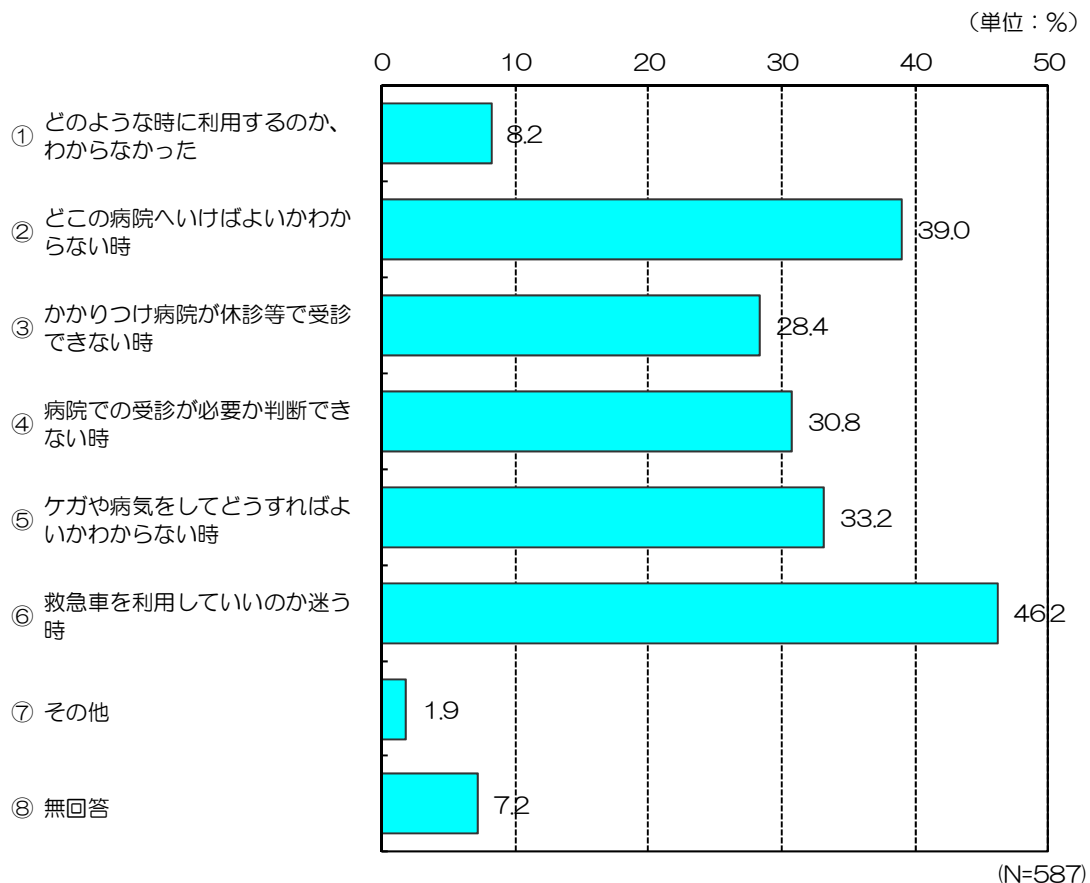
**【居住年数別の考察】**

居住年数別にみると、『5～10年未満』で認知率が44.3%と高くなっているが、『1年未満』『1年～5年未満』では3割前後と低くなっている。(図表 5-1-4)

## (2) 「救急安心センターおおさか」の利用方法の認知

問25-1. 【「救急安心センターおおさか」認知者】「救急安心センターおおさか」は、どのような時に利用するか、このアンケートをお答えいただく以前から知っていましたか。  
(〇はいくつでも)

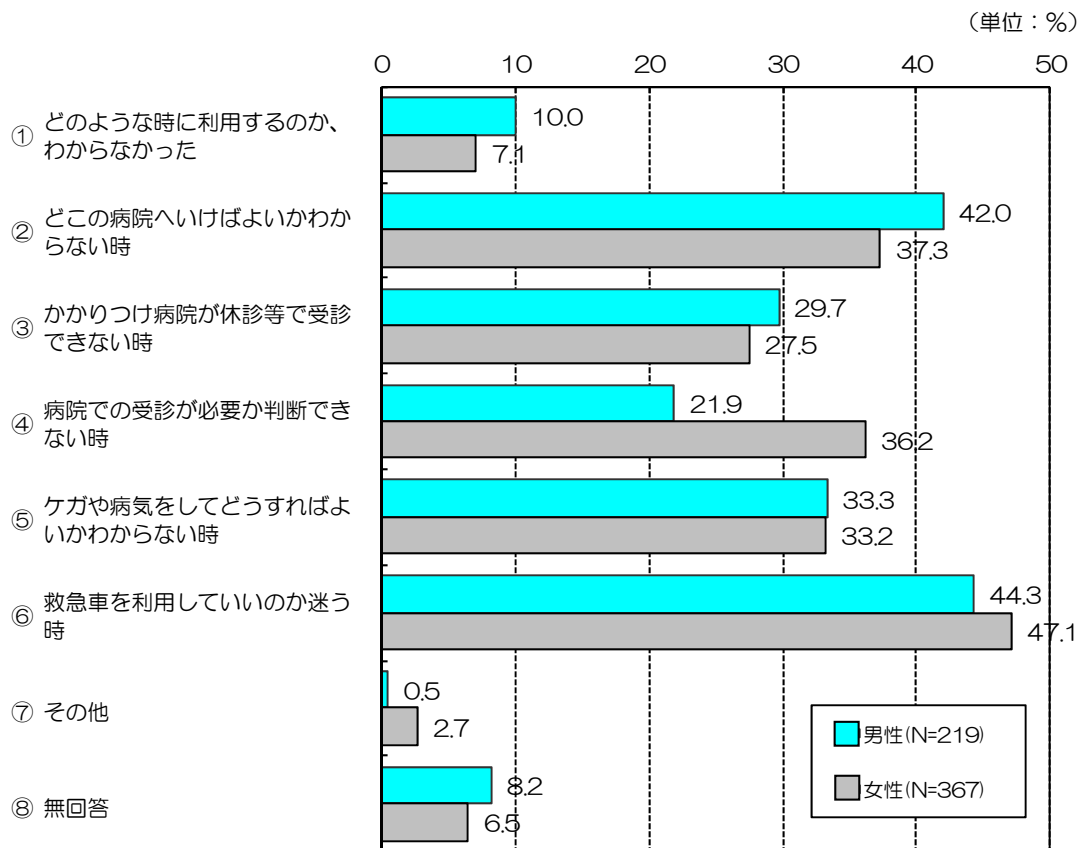
〔図表5-2 「救急安心センターおおさか」の利用方法の認知【複数回答】〕



### 【全体の考察】

「救急安心センターおおさか」の利用方法をたずねた。「⑥救急車を利用していいのか迷う時」が46.2%で最も高く、次いで「②どの病院へいけばよいかわからない時」が39.0%となっている。「①どのような時に利用するのか、わからなかった」という人は8.2%と1割に満たない。(図表5-2)

〔図表 5-2-1 「救急安心センターおおさか」の利用方法の認知【複数回答】(性別)〕

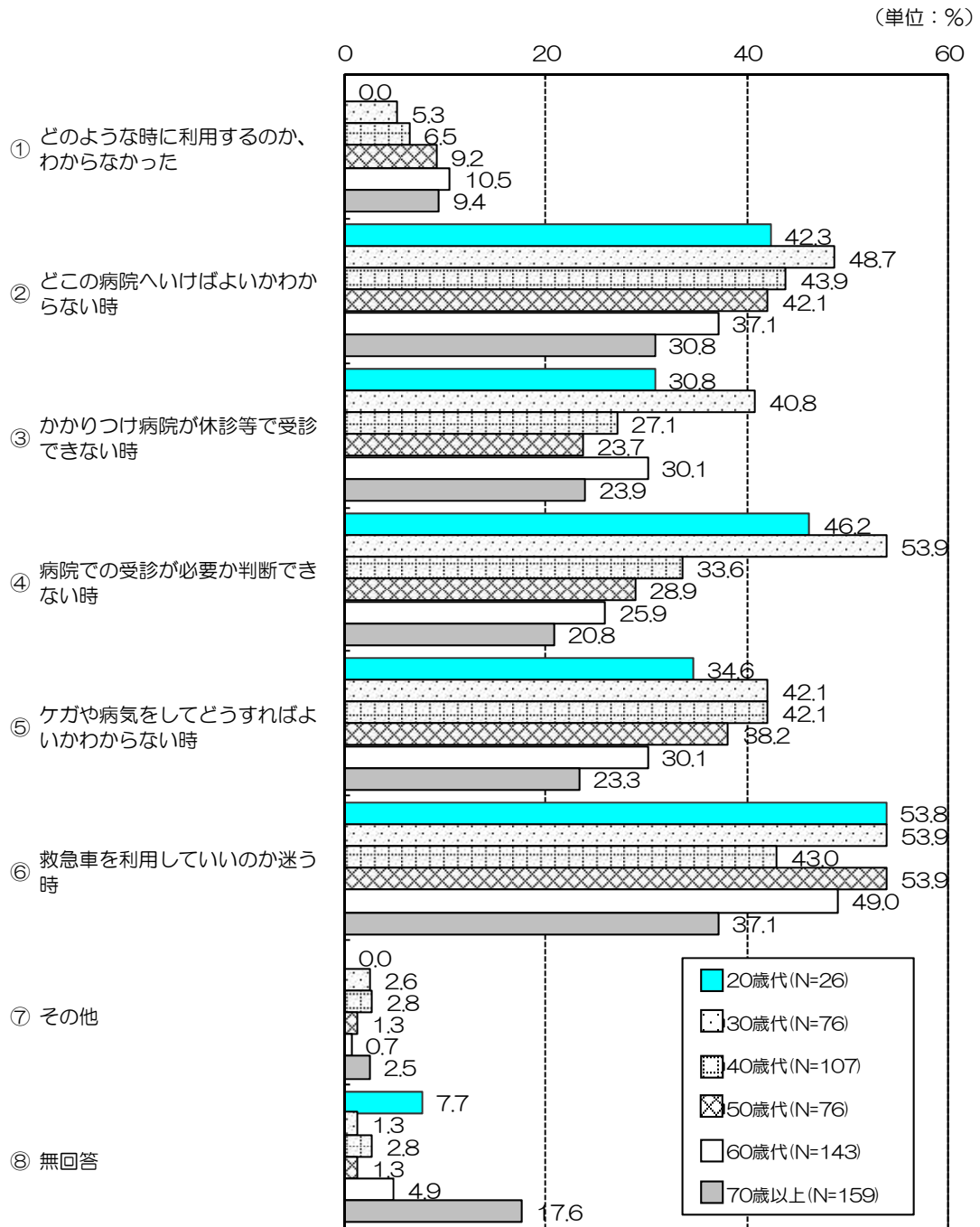


### 【性別の考察】

性別にみると、男女とも「⑥救急車を利用していいのか迷う時」が4割台で最も高く、次いで「②どの病院へいけばよいかわからない時」が4割前後となっている。

「④病院での受診が必要か判断できない時」は男女差が大きく、『女性』は『男性』より14.3ポイント高くなっている。(図表 5-2-1)

〔図表 5-2-2 「救急安心センターおおさか」の利用方法の認知【複数回答】(年代別)〕



【年代別の考察】

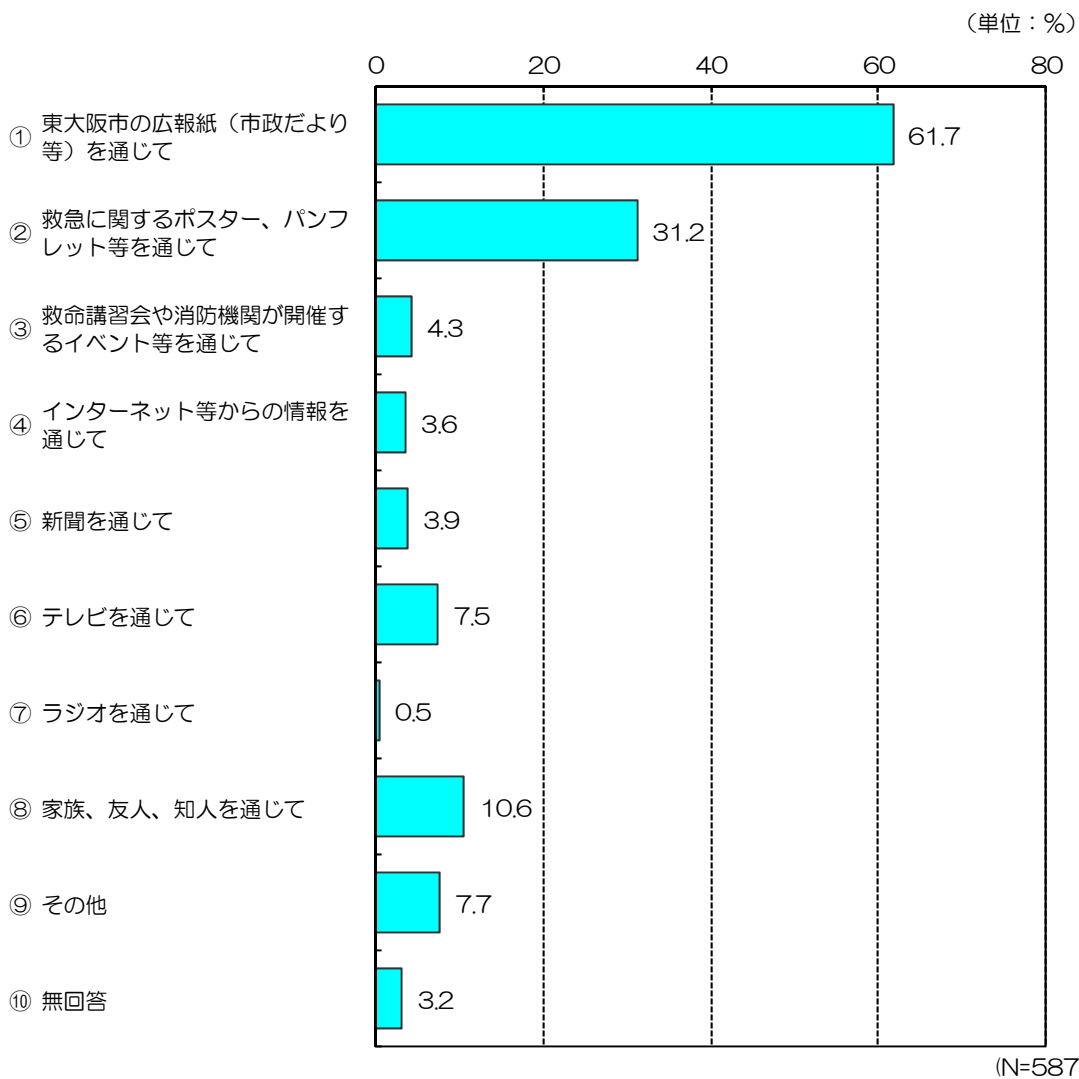
年代別にみると、『30歳代』は「②どの病院へいけばよいかわからない時」が48.7%、「③かかりつけ病院が休診等で受診できない時」が40.8%、「④病院での受診が必要か判断できない時」が53.9%と他の年代よりも高くなっている。『70歳以上』は、全体的に低く、「⑧無回答」が17.6%と高くなっている。

(図表 5-2-2)

### (3) 「救急安心センターおおさか」の認知経路

問25-2. 【「救急安心センターおおさか」認知者】「救急安心センターおおさか」は、何を  
通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

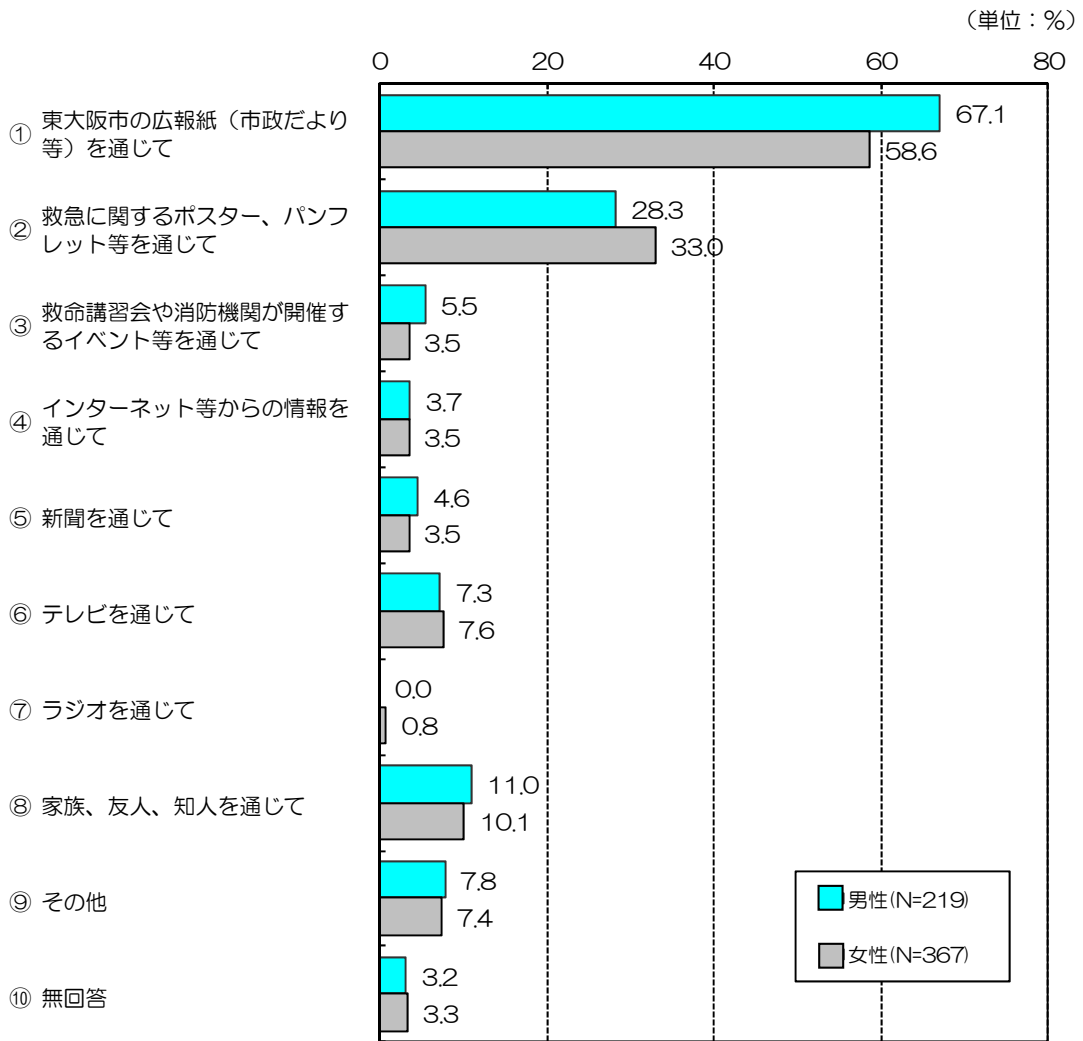
〔図表 5-3 「救急安心センターおおさか」の認知経路【複数回答】〕



#### 【全体の考察】

「救急安心センターおおさか」の認知経路をたずねた。「①東大阪市の広報紙（市政だより等）を通じて」が61.7%で最も高く、以下「②救急に関するポスター、パンフレット等を通じて」（31.2%）、「⑧家族、友人、知人を通じて」（10.6%）などの順となっている。（図表5-3）

〔図表 5-3-1 「救急安心センターおおさか」の認知経路【複数回答】(性別)〕

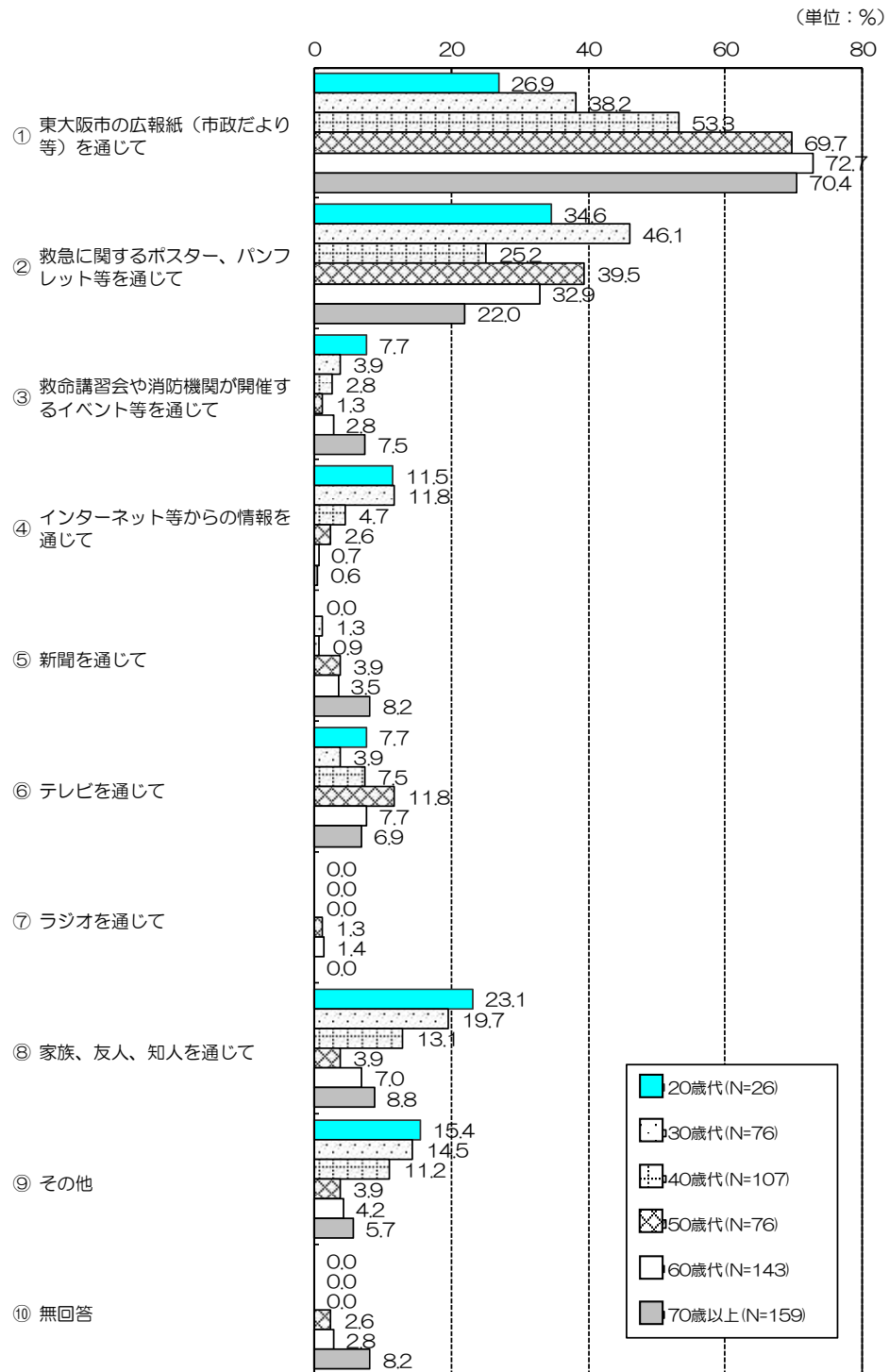


**【性別の考察】**

性別にみると、男女とも「①東大阪市の広報紙（市政だより等）を通じて」が高くなっているが、特に『男性』は、『女性』より 8.5 ポイント高くなっている。（図表 5-3-1）



〔図表 5-3-2 「救急安心センターおおさか」の認知経路【複数回答】（年代別）〕



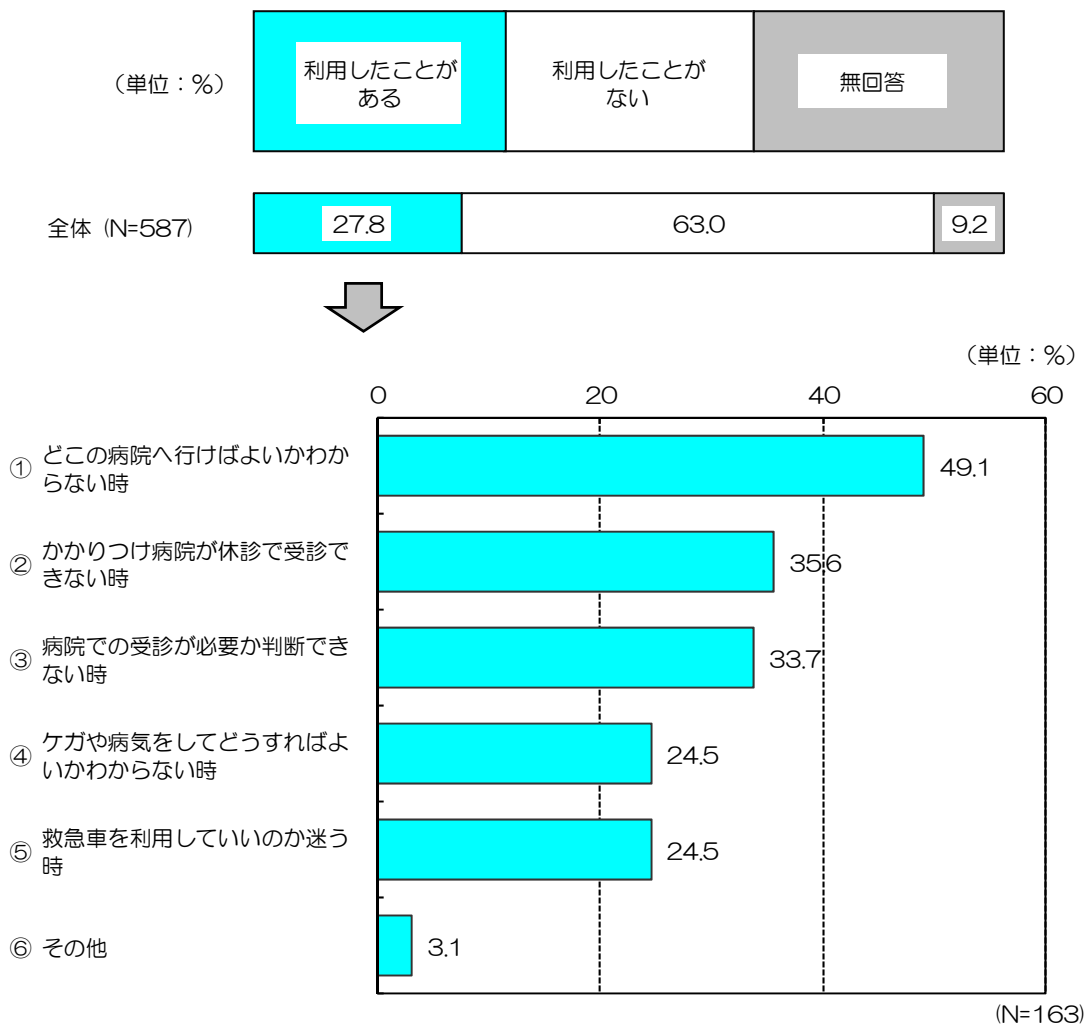
**【年代別の考察】**

年代別にみると、「①東大阪市の広報紙（市政だより等）を通じて」での認知は年代差が大きく、『50歳代』以上では7割前後であるが、『40歳代』は53.3%、『30歳代』は38.2%、『20歳代』は26.9%となっている。『20～40歳代』は「⑧家族、友人、知人を通じて」の認知が『50歳代』以上に比べ高くなっている。（図表 5-3-2）

(4) 「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面

問 2 5 - 3. 【「救急安心センターおおさか」認知者】「救急安心センターおおさか」の利用についてお聞きします。どのような時に利用しましたか。(〇はいくつでも)

〔図表 5-4 「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面【複数回答】〕

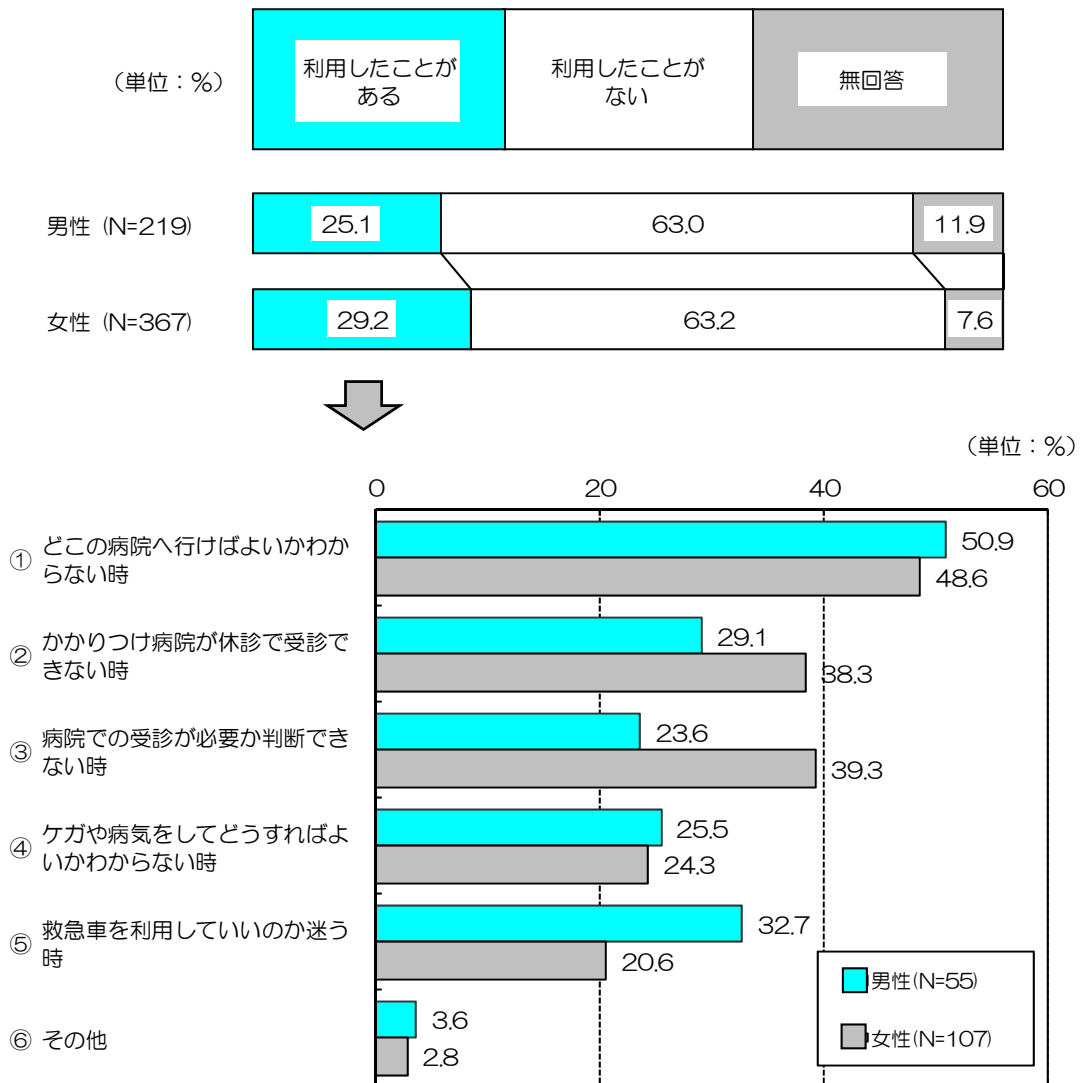


【全体の考察】

「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面をたずねた。利用経験率は27.8%であった。

利用場面は、「①どの病院へ行けばよいかわからない時」が49.1%で最も高く、利用方法の認知で最も多かった「⑤救急車を利用していいのか迷う時」は同率の「④ケガや病気をしてもうすればよいかわからない時」とともに24.5%と最も低くなっている。(図表5-4)

〔図表 5-4-1 「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面【複数回答】(性別)〕

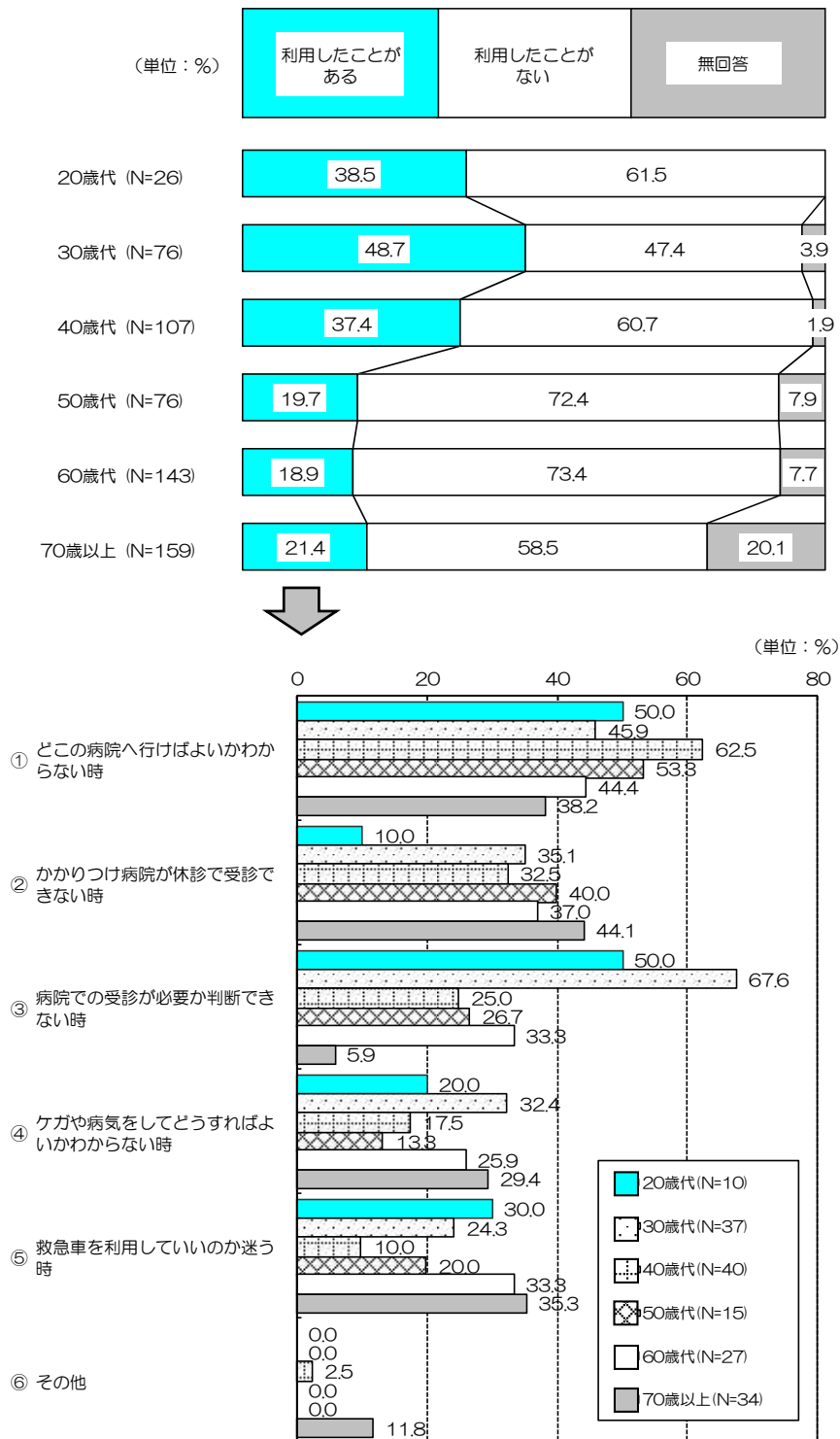


### 【性別の考察】

性別にみると、利用経験は、『男性』が25.1%、『女性』が29.2%で、『女性』の方が4.1ポイント高くなっている。

利用場面は、男女とも「①どの病院へ行けばよいかわからない時」が最も高く5割前後となっている。『女性』は『男性』に比べ「②かかりつけ病院が休診で受診できない時」が9.1ポイント、「③病院での受診が必要か判断できない時」が15.7ポイント高く、『男性』は『女性』に比べ「⑤救急車を利用していいのか迷う時」が12.1ポイント高くなっている。(図表 5-4-1)

〔図表 5-4-2 「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面【複数回答】（年代別）〕

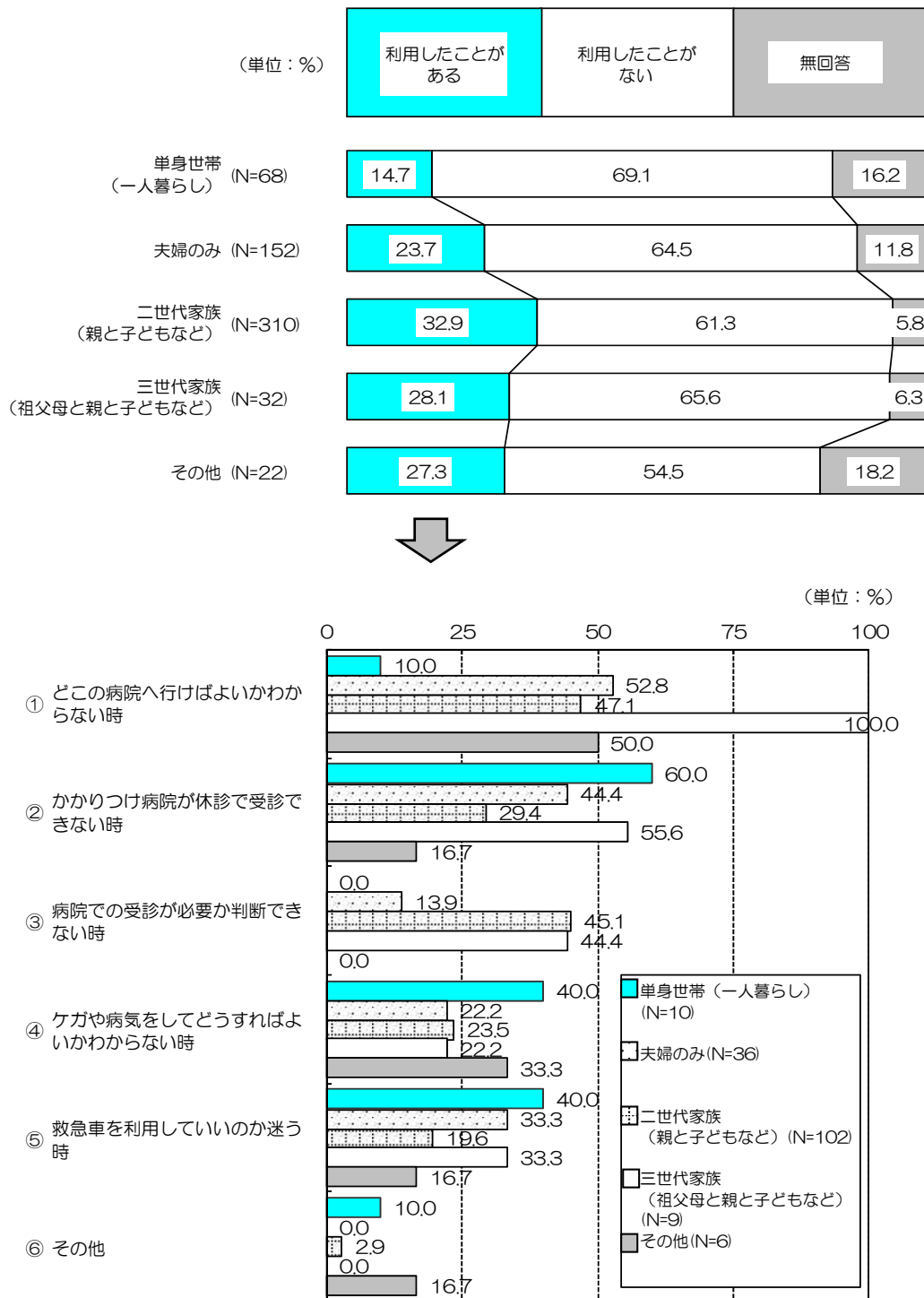


【年代別の考察】

年代別にみると、利用率は『30歳代』が48.7%で最も高くなっている。次いで、『20歳代』と『40歳代』が4割弱である。『50歳代』以上では利用率は2割前後と低い。

利用場面をみると、利用率の高い『30歳代』では、「③病院での受診が必要か判断できない時」が67.6%で最も高くなっている。(図表 5-4-2)

〔図表 5-4-3 「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面【複数回答】（家族構成別）〕

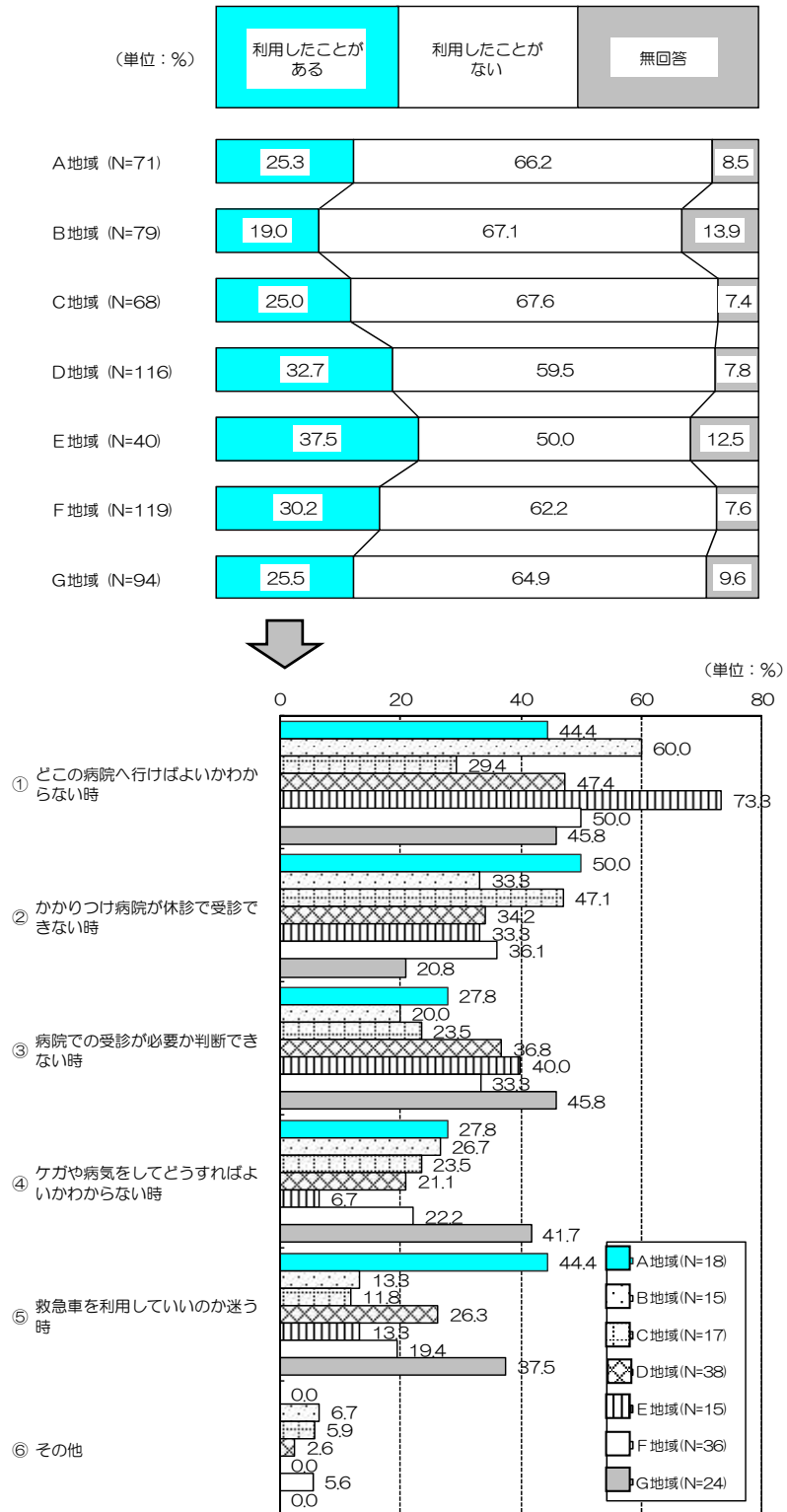


### 【家族構成別の考察】

家族構成別にみると、『二世世代家族（親と子どもなど）』が 32.9%で最も利用率が高くなっている。『単身世帯（一人暮らし）』の利用率は 14.7%と低い。

利用場面は、『二世世代家族（親と子どもなど）』では「①どの病院へ行けばよいかわからない時」(47.1%)と「③病院での受診が必要か判断できない時」(45.1%)が僅差で上位となっている。(図表 5-4-3)

〔図表 5-4-4 「救急安心センターおおさか」の利用経験と利用場面【複数回答】（居住地域別）〕



【居住地域別の考察】

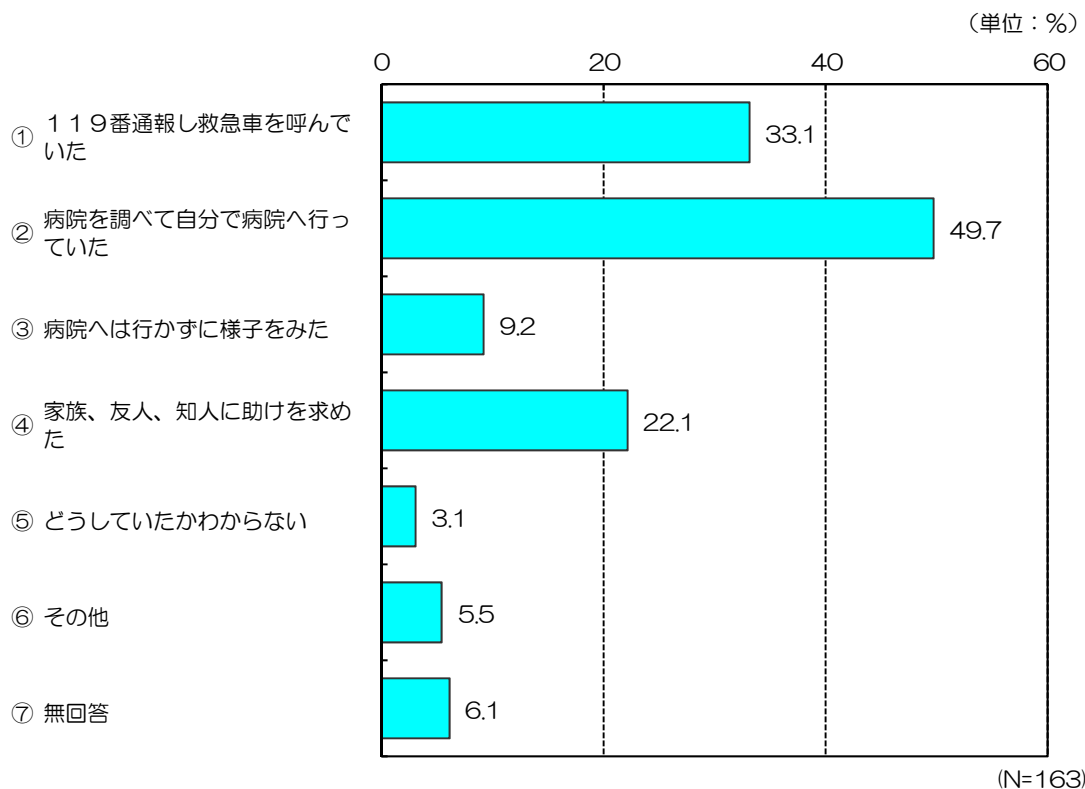
居住地域別にみると、利用率は『E地域』で37.5%、『D地域』で32.7%、『F地域』で30.2%と高くなっている。

利用場面は、利用率の高い『E地域』で「①どの病院へ行けばよいかわからない時」が73.3%と高くなっているが、サンプル数が少ないため参考値とする。(図表 5-4-4)

(5) 「救急安心センターおおさか」がなかったときの対応

問25-4. 【「救急安心センターおおさか」利用経験者】「救急安心センターおおさか」がなかったら、そのときどうしていたと思いますか。(〇はいくつでも)

〔図表5-5 「救急安心センターおおさか」がなかったときの対応【複数回答】〕

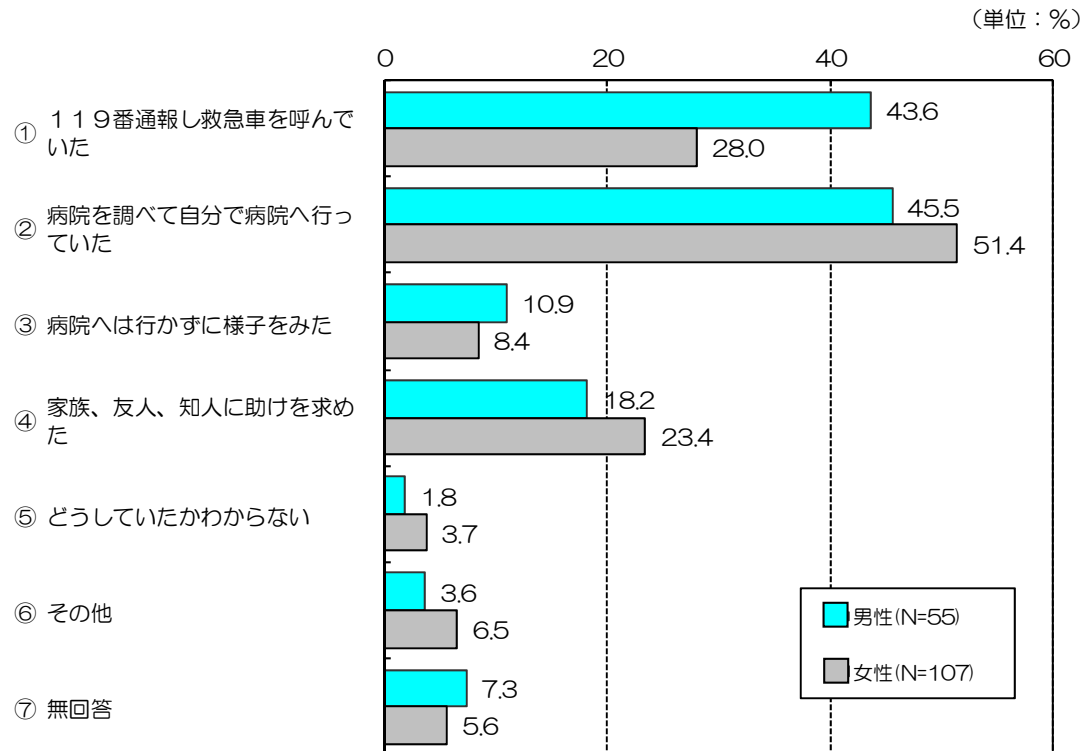


【全体の考察】

「救急安心センターおおさか」がなかったときの対応をたずねた。「②病院を調べて自分で病院へ行っていた」が49.7%で最も高く、以下「①119番通報し救急車を呼んでいた」(33.1%)、「④家族、友人、知人に助けを求めた」(22.1%)などの順となっている。

(図表5-5)

〔図表 5-5-1 「救急安心センターおおさか」がなかったときの対応【複数回答】(性別)〕

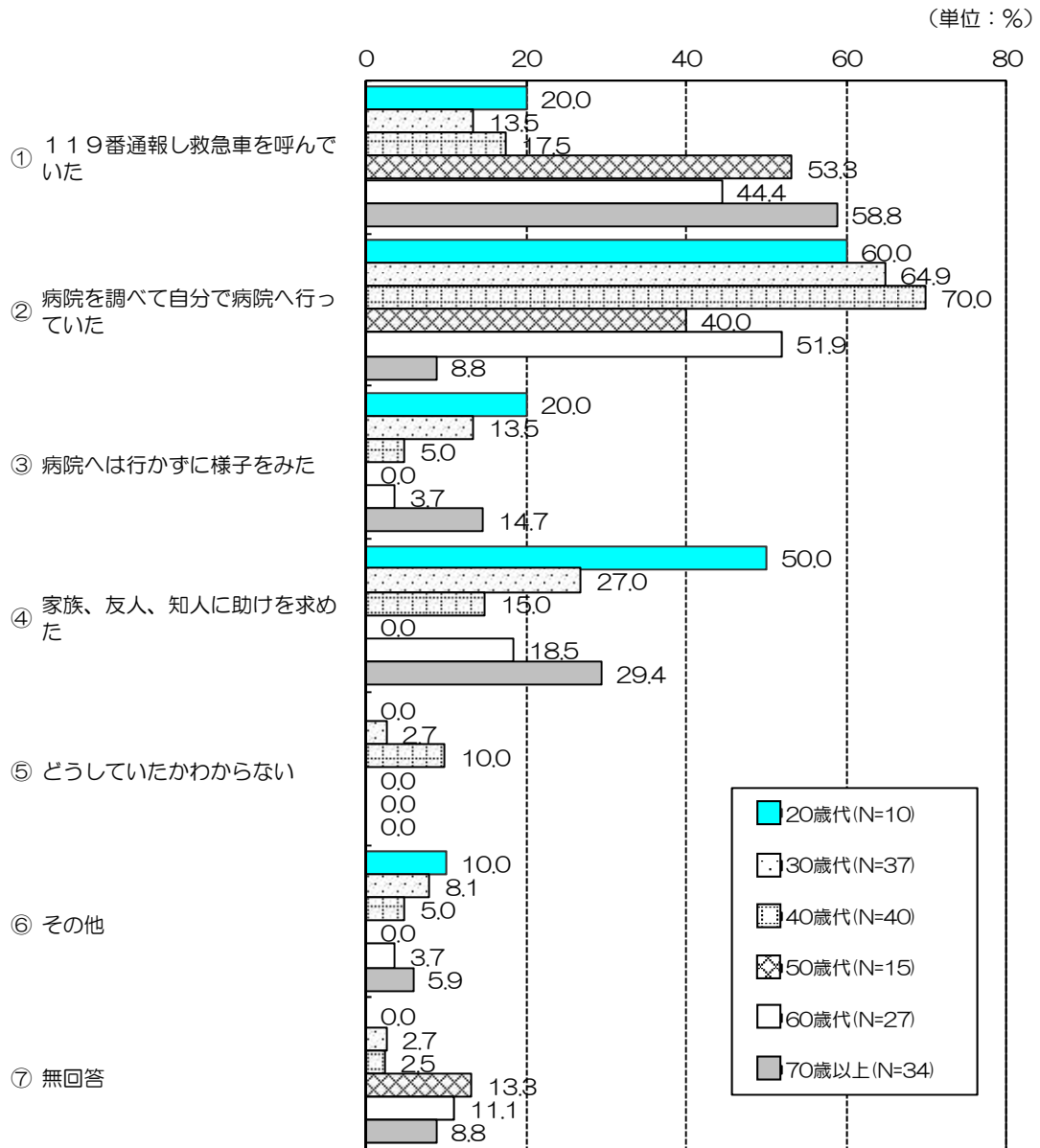


### 【性別の考察】

性別にみると、男女とも「②病院を調べて自分で病院へ行っていた」が5割前後で最も高くなっている。『男性』は「①119番通報し救急車を呼んでいた」も僅差であがっており、『女性』より15.6ポイントも高くなっている。(図表 5-5-1)



〔図表 5-5-2 「救急安心センターおおさか」がなかったときの対応【複数回答】(年代別)〕



**【年代別の考察】**

年代別にみると、『40歳代』以下は「②病院を調べて自分で病院へ行っていた」が6割以上と高く、「①119番通報し救急車を呼んでいた」は2割以下と少ない。逆に、『50歳代』以上では、「①119番通報し救急車を呼んでいた」が4割以上と高くなっている。『20歳代』では、「④家族、友人、知人に助けを求めた」も50.0%と高くなっているが、サンプル数が少ないため参考値とする。(図表 5-5-2)